

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2023年 第21週（5月22日～5月28日）

今週のコメント

～感染症予防の基本～ 咳エチケット、手洗いが重要

定点把握感染症

「ヘルパンギーナ2週連続で前週比2倍を超える増加」

第21週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は 2,992例であり、前週比 5.8%増であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、RSウイルス感染症、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、咽頭結膜熱の順で、上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 6.12、3.86、2.47、1.41、0.91である。

感染性胃腸炎は前週比 14%減の1,169例で、南河内10.88、三島8.94、北河内7.04、大阪市南部6.44、豊能6.10であった。

RSウイルス感染症は 4%増の738例で、南河内8.81、大阪市北部5.29、北河内4.54である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 14%増の472例で、北河内4.75、南河内4.44、堺市3.32であった。

ヘルパンギーナは 155%増の270例で、堺市2.53、泉州2.15、中河内・大阪市南部1.83である。

咽頭結膜熱は 61%増の174例で、大阪市西部1.40、大阪市東部1.27、泉州1.15であった。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は前週比16%増の797例で、定点あたり報告数は2.75である。泉州3.32、大阪市南部3.15、南河内3.13、大阪市北部3.05、大阪市東部3.00であった。前週比で80歳以上の報告数、全報告数に占める割合がともに増加した。

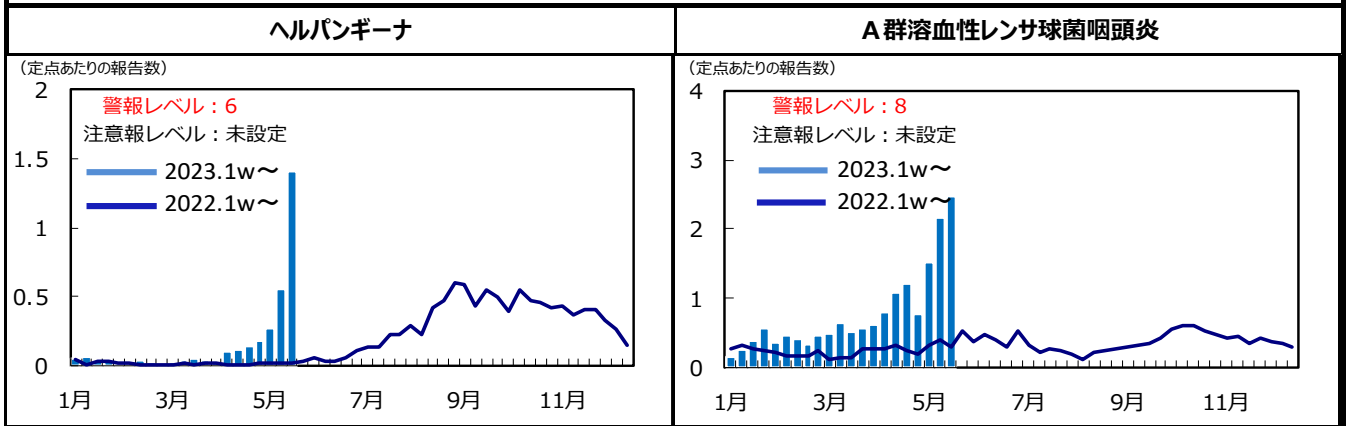


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2023年 第21週5月22日～5月28日）

第21週の順位	第20週の順位	感染症	2023年 第21週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2022年 第21週の 定点あたり 報告数	2023年第21週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	6.12	14%減	4.98	4歳_13%
2	2	RSウイルス感染症	3.86	4%増	0.36	1歳未満_31%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.47	14%増	0.30	5歳_15%
4	5	ヘルパンギーナ	1.41	155%増	0.03	2歳_24%
5	4	咽頭結膜熱	0.91	61%増	0.64	1歳_44%
参考		新型コロナウイルス感染症 (COVID-19定点報告疾患)	2.75	16%増	-	10-19歳_15%

新型コロナウイルス感染症は、定点種別が異なるため、参考として記載しています。

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。

第21週のコメント

～バンコマイシン耐性腸球菌感染症～ 2022年の大阪府の報告数は18例であった。

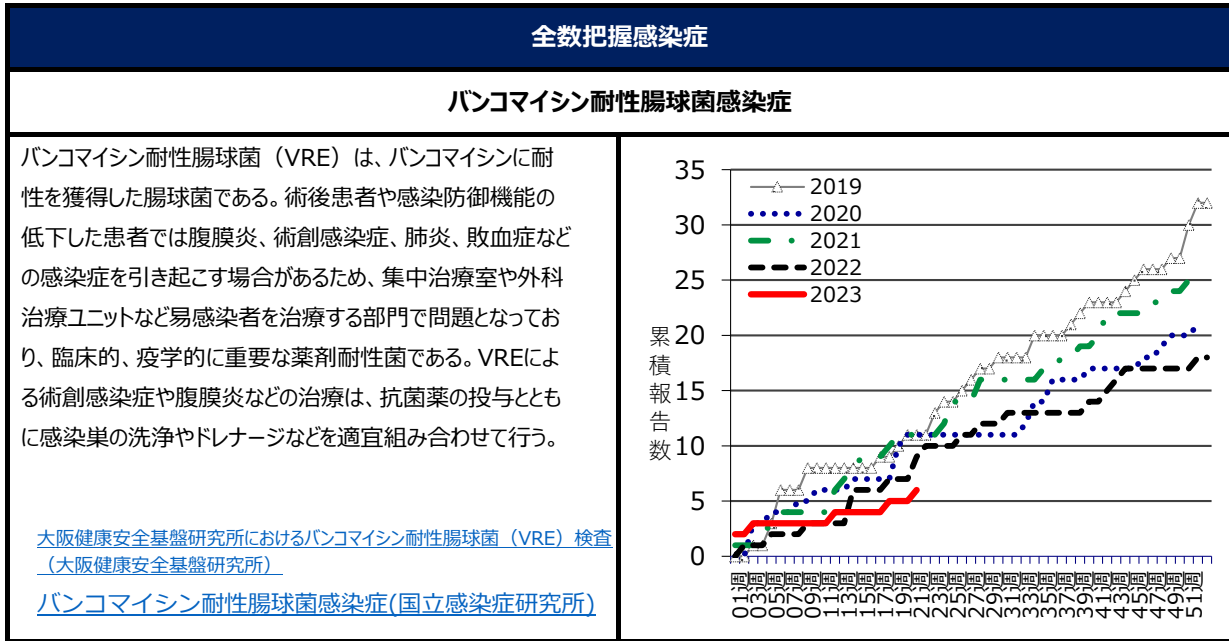


表 2. 大阪府全数報告数（2023年 第21週5月22日～5月28日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	1	1								30
4類感染症	エムボックス	1				1					15
	日本紅斑熱	1							1		3
5類感染症	アメーバ赤痢	2			1					1	16
	ウイルス性肝炎	1				1					9
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3					1		1	1	56
	急性脳炎	1							1		9
	後天性免疫不全症候群	2				1				1	28
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1				1					20
	侵襲性肺炎球菌感染症	3		1						2	61
	梅毒	21	3	1					2	15	796
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1								1	6
結核 (2023年3月分)	結核 新登録患者数：88名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 34名) (府内累積報告数 261名、内 肺・喀痰塗抹陽性 103名)										

(2023年5月30日 集計分)